

- 1 題材名 言葉や旋律にふさわしい表現を工夫して歌おう  
教材名 表現 「夏の思い出」(江間章子 作詞、中田喜直 作曲)

2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

A 表現 (1) 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。

[共通事項] ア リズム、速度、旋律、強弱、形式

(1) 題材観

本題材は、歌唱を通して日本の歌の美しさを味わうことをねらいとしている。その手立てとして、言葉と旋律に注目し、ふさわしい速さや休符感、強弱、フレーズ感などを工夫し、自然のよさや穏やかさを聞き手に語りかけるように歌うことを学習する。

日本の歌を学習するうえで、季節感を大切にしたいと考え、6月の時期に本題材を設定した。「夏の思い出」という題名ではあるが、過ぎ去った夏を思って歌うのではなく、はるか遠い時間、場所を超えて、懐かしみながら思いを馳せる楽曲であることを生徒にも感じ取らせたい。共通教材としての日本の歌には、このような趣深いものが数多くあり、「夏の思い出」は、夏の日の静寂な尾瀬沼の風物への追憶を表した静寂な楽曲である。旋律の動きは、四分音符と八分音符で作られていることや、二長調であることから、穏やかで心和むような雰囲気曲であることがさらに理解できる。やわらかに優しく歌う前半部分と、リズムや速さに変化をつけた後半部分とで、1曲の中で対照的に表現する学習に取り組ませたい。

また、日本語の美しさを味わい、この学習を通して”尾瀬”という言葉を知ると旋律が口ずさめるような親しみをもたせさせたい。

(2) 生徒の実態 (男子13名、女子16名 計29名)

本学級の生徒は、活発な生徒が多く、集団として前向きに音楽を学習しようという意欲がみられる。

日頃の授業で合唱に取り組む姿は、音をつかむことは得意だが、それだけで満足してしまい、自分の思いや意図をもって歌ったり、作曲者の思いに迫ったりすることがまだ身につけていない。そこで、本題材では、歌詞から情景を思い浮かべながら、言葉を大切に歌うことに取り組ませたい。





また、リズムに関しての実態は、符点や拍の頭にくる8分休符のつかみ方の理解が甘く、同じリズムパターンを繰り返すことで、テンポが速くなってしまう。さらに、4分休符は拍の流れにのって休符を感じることはできるが、8分休符では、あいまいな休符感をとらえてしまう生徒が多かった。そこで、ここでは楽譜にも着目し、速度記号や強弱にもより意識をさせて取り組ませたい。

《実態調査》（6月1日実施）

1 小学校で歌ったことのある曲に○をつけましょう（季節感のある楽曲）

学年		知らない	知っている	学年		知らない	知っている
小学 1	「うみ」(夏)	0	29	小学 5 ・ 6	「こいのぼり」(春)	22	7
	「かたつむり」(梅雨～初夏)	1	28		「赤とんぼ」(秋)	1	28
小学 2	「春がきた」(春)	1	28		「スキーの歌」(冬)	25	4
	「虫のこえ」(秋)	13	26		「冬景色」(冬)	22	7
小学 3	「茶つみ」(夏前)	7	22		「おぼろ月夜」(春)	14	15
	「春の小川」(春)	10	19		「われは海の子」(夏)	12	17
小学 4	「さくらさくら」(春)	0	29				
	「もみじ」(秋)	11	18				

2 次の記号が示す音楽の変化のつけ方がわかるものに○をつけましょう

記号	正しく読めた人	意味について	正しくリズム打ち ができた人
1 テヌート 	(1)	音を伸ばさない(1) 長さを十分に保って(7) なめらかに(8) 次の音につながるように(6)	
2 スタッカート 	(13)	はずむように(16) 音を伸ばさない(7)	
3 	(3) 誤答(2)	音を伸ばさない(1) 長さを十分に保って(3) なめらかに(1) 音を消す(8) 次の音につながるように(4)	(10)
4 	(5) 誤答(7)	音を消す(18)	(29)

3 あなたが知っている強弱記号を書きなさい。

弱	$\overbrace{\text{pp} \quad \text{p} \quad \text{mp} \quad \text{mf} \quad \text{f} \quad \text{ff} \quad \text{fff} \quad \text{fp} \quad < \quad > \quad \leq \quad \geq}$	強
人数	5 12 16 15 14 8 3 1 4 5 1 1	

<考察>

実態調査1より、低学年で学んだ歌は、印象が強く残っており、高学年の歌は印象が薄いことがわかった。このことは、幼少のころより何度も耳にしたり、繰り返し口ずさんだ経験からだろうと思われる。高学年になると歌い方を考えたり、歌詞の意味を理解したりしてきているが、深まりに欠け、あまり身につけていないと考えられる。

実態調査2、3より、音楽記号の意味やリズムうちの結果から、正しく理解している生徒は少なかった。小学校での学習を振り返らせながら、本時の学習につなげていきたい。

### (3) 指導観

第1時では、歌詞の内容をつかみ、旋律が歌えるようにする。ここでは、歌詞の内容や言葉を知覚できるようにするために、教科書の写真を参考にしながら学習を進め、情景を思い浮かべることができるようにしていきたい。また、二番のリズムが変化していることにも気付かせ、次時の表現方法の工夫につなげたい。

第2時では、歌詞の内容を考え、曲にふさわしい表現の工夫を行っていく。

そこで、歌詞の「夢みて咲いている」「夢みてにおっている」の場面は、ただ咲いている（におっている）のではなく、どのように歌い方を工夫できるのかを考え、「演奏→たしかめ（録音・聴く）→演奏…」の方法で表現を工夫させたい。また、旋律から言葉のリズムを感じ取り、休符のところでは指先をつぼめる動作をすることで、休符感をとらえさせたい。繰り返し登場する「はるかな尾瀬 遠い空」からは、歌詞の読解も行いたい。歌い手が今はもう自然の中にはいないことを読み取り、素朴で心穏やかになる自然に思いをめぐらせて歌っていることを全体で確認させたい。そこに、作詞者である江間章子さんの思いがあることにも気づかせたい。

歌いだしの8分休符（「**7**なつが〜」「**7**きりの〜」「**7**はなの〜」）では子音の準備をしっかりとすることで、発音が明確になり、聞き手に言葉が伝わりやすくなることを学ばせたい。

本楽曲を学ぶことで、日本の夏の高原がもつ「爽やかさ」や「和やかな雰囲気」を味わわせたい。また、旋律を口ずさむことで、心が落ち着き、懐かしさを感じられるきっかけになるよう指導していきたい。

### 3 題材の目標

言葉と旋律に注目し、ふさわしい速さや休符感、強弱、フレーズ感などを工夫し、情景が伝わるように言葉を大切に歌う。

### 4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
歌詞の内容（言葉の意味、歌詞が表す情景）や曲想に関心を持ち、曲にふさわしい表現方法を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①音楽を形づくっている要素（旋律の音の動きやフレーズ、強弱、速さ、伴奏）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、歌詞の内容や曲想を味わっている。 ②言葉や旋律にふさわしい表現方法を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	言葉や旋律にふさわしい表現方法を工夫し、それらの音楽表現をするために必要な技能を身につけて歌っている。

## 5 研究の視点について

### 【視点1】 9年間を見通した学び方の共有

#### ○表現領域に関する小学校と中学校のつながり

小学校では、拍を感じて様子を思い浮かべ、拍の流れによって旋律の特徴を感じ取り、さらに曲想を味わう学習を深めてきた。中学校では、作曲者の思いや意図を感じ取り、歌詞から情景の様子を思い浮かべ、言葉を大切に表現豊かに歌ってきている。小学校で様々な楽曲から気分や雰囲気を感じ取ってきた経験を土台として、音楽を形づくっている要素と結びつけるとともに、曲にふさわしい自分の感情やイメージを広げ、思いや意図をもって創意工夫をさせて歌わせたい。

また、歌詞の解釈を深め、楽曲の気分を感じ取るだけでなく、味わうように発展させていくことで、より楽曲のよさを感じ取ることができると考える。とくに場面や情景の中に含まれる「儂さ」「侘しさ」「虚しさ」といった、ただ「悲しい」「さびしい」だけではないものの味わいにつなげていくことができる。

そのためには、楽譜に着目させ、なぜその部分に記号がつけられたのか考えさせ、どのようにすれば曲にふさわしい表現になるか工夫させたい。

ここで扱う共通教材「夏の思い出」は、世代を超えて我が国で親しまれてきた曲である。そのため、我が国のよき音楽文化を受け継いでいく意味からも大切であると考え、そこで、小学校から扱ってきている音楽を形づくっている要素や仕組みを知覚し、その働きが生み出すよさなどを感じ取るという一連の過程の中で指導していきたい。そして、イメージや意図などを伝え合う活動を取り入れることによって、表現を高めていきたい。

	学習指導要領 A 表現	日本の歌（季節の歌より）
小学校 第1学年 第2学年	イ「歌詞の表す情景や気持ちを想像する。」 「楽曲の気分（雰囲気）を感じとる。」	「うみ」（夏）
		「かたつむり」（梅雨～初夏）
第3学年 第4学年	イ「歌詞の内容や曲想にふさわしい表現の工夫」 エ「互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴く」 「声を合わせて歌う。」	「春がきた」（春）「虫のこえ」（秋）
		「茶つみ」（夏前）「春の小川」（春）
第5学年 第6学年	イ「歌詞の内容、曲想を生かした表現の工夫」 「思いや意図をもって歌うこと。」 ウ「呼吸及び発声の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きのある歌い方」	「さくらさくら」（春）「もみじ」（秋）
		「こいのぼり」（春） 「スキーの歌」「冬景色」（冬）
中学校 第1学年	ア「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌う」 イ「言葉の特性を生かして歌う。」	「おぼろ月夜」（春） 「われは海の子」（夏）
第2学年 第3学年	ア「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌う。」 イ「言葉の特性を理解して、それらを生かして歌う。」	「赤とんぼ」（秋）
		「夏の思い出」（夏前）「荒城の月」（秋） 「花」（春）「早春賦」（冬）

6 題材の指導計画（2時間計画）



時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
ねらい 歌詞の内容をつかみ、旋律が歌えるようになる		
第一時	<p>○主旋律をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フレーズ感をつかみ、口ずさめるようになる。</li> </ul> <p>○歌詞の内容、言葉を知覚する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の写真を参考に情景を思い浮かばせる。</li> </ul> <p>○2番のリズムの変化を知覚する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「(夢みて) 咲いている」と「にっている」の対比をし、正しいリズムの変化をつけられるようになる。</li> </ul>	<p>歌詞の内容や曲想に関心をもち、言葉や旋律にふさわしい表現方法を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。（音楽への関心・意欲・態度）</p> <p>言葉や旋律にふさわしい表現方法を工夫し、それらの音楽表現をするために必要な技能を身につけて歌っている。（音楽表現の技能）</p>
ねらい 情景が伝わるように、言葉を大切に歌う		
第二時 (本時)	<p>○歌詞の内容を考えて、曲にふさわしい表現の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手の動きをつけて、速さの変化や休符感をつかむ。</li> <li>・ねらい通りに歌えているかを、録音・録画でたしかめる。</li> </ul>	<p>音楽を形づくっている要素（旋律の音の動きやフレーズ、強弱、速さ、伴奏）の働きを知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わっている。言葉や旋律にふさわしい表現方法を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p style="text-align: right;">（音楽表現の創意工夫）</p>

## 7 本時の学習（2 / 2）

### （1）目標

情景を思い浮かべながら、言葉を大切にしながら歌うことができる。

### （2）展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準<評価方法>
1 「校歌」を歌う。 2 リズムドリルをする。 ①  ②  3 「夏の思い出」（主旋律）を全員で歌う。 1、2番 4 本時の目標をつかむ。	○教師のかかわり ◆評価規準<評価方法> ○全員で歌うことで学習の雰囲気を作る。 ○リズムボックスで拍の流れを作り、正確に叩けるよう支援する。 ○手を握ることで休符を感じさせるように助言する。 ○全員で歌うことにより、本時の目標に迫る。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             情景が伝わるように、気持ちをこめて歌おう           </div>	
5 録音を聴く。（1番のみ）  6 3グループに分かれ、歌い方の工夫ができる場所を考える。拡大譜へ書き込む。 考えられる工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の発音</li> <li>・強弱</li> <li>・休符</li> <li>・フェルマータ</li> <li>・テヌート</li> <li>・速さ</li> </ul> 7 歌い方の工夫ができる場所「水芭蕉の花が～遠い空まで」を中心に練習する。 ・予備拍をとり、手拍子に合わせて練習  8 表現の工夫をした部分を発表する  9 今日の学習をふりかえる。	○歌い方が変化しているところに注目して聴くように促す。 ○情景が伝わるように、気持ちをこめて歌われていたかどうか聴くようにしていく。  ○それぞれのグループを回り、歌い方の工夫するところを拡大譜に書かせ、発表に生かすようにする。 ○楽譜に着目させ、音楽記号を意識させる。 ○教科書の写真や作曲者の言葉をたよりに、工夫するように促す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;">             ◆言葉や旋律にふさわしい表現方法を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。              （音楽表現の創意工夫）           </div> ○それぞれのグループを回り、一緒に手の動きをつけながら、歌い方の工夫を支援する。  ○拡大譜に示した表現の工夫を全体に伝え、共有していく。 ○言葉を大切に歌えたかを確認する。